

2019年（平成31年） 4月26日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/11~4/17のNYMEX・WTIは、63.40~64.05ドルの範囲で推移した。

4月18日は、前日のEIA米国原油在庫の4週ぶり積み増し報告やOPECプラスの下期減産打ち切り観測による売りにもかかわらず、サウジの3月原油輸出量日量598万バレル(前月比同27万バレル減)との報道、ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数825基(前週比8基減)と3週ぶりの減少報告等により、小幅反発した。5月限終値は前日比0.24ドル高の64.00ドル。

週末19日は、イースターフライデーの休日で休場。

週明け22日は、ポンペオ米国務長官のイラン原油の主要輸入8カ国に対する適用除外措置を5月3日以降停止するとの発言を受け大幅続伸した。この日納会を迎えた5月限終値は前週末比1.70ドル高の65.70ドル。

23日は、前日の米国の対イラン制裁強化方針を受けて続伸し、昨年10月29日以来約半年振りの高値を付けた。なお、サウジのファリハ・エネルギー相は、十分な原油供給を確保するために他の産油国と協調し対応すると発言したものの、具体的内容は明らかにしなかった。中心限月に繰り上がった6月限終値は前日比0.75ドル高の66.30ドル。

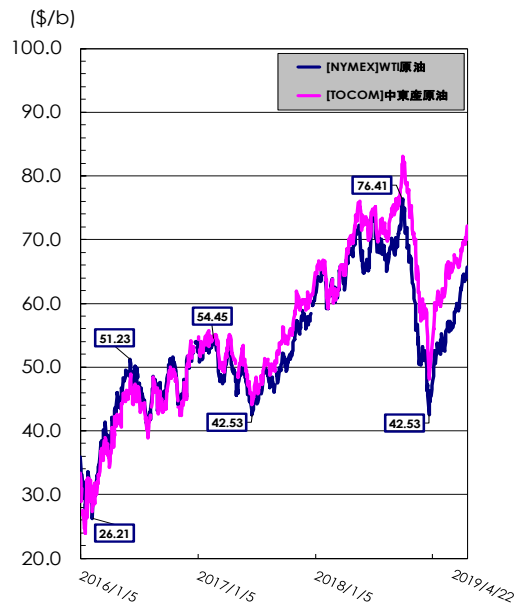
24日は、この日発表のEIA在庫週報で、米国原油在庫が前週比550万バレル増と市場予想に反して2週振りの積み増しになったことから、反落した。6月限終値は前日比0.41ドル安の65.89ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(6月渡し)は4月11日~17日の間70.00~71.20ドルの範囲で推移した。4月18日70.90ドル、19日71.20ドル、22日73.10ドル、23日73.70ドル、24日73.70ドルで推移した。

為替は4月11日~17日の間111.11~112.14円の範囲で推移した。4月18日112.04円、19日112.01円、22日111.99円、23日111.86円、24日111.95円で推移した。

そのような中で、4月22日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.2円の値上がり、軽油も同1.1円の値上がり、灯油も同15円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに10週連続の値上がりだった。この週(4月第4週)の原油コストは値上がりし、次週・次々週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の引き上げとなった。

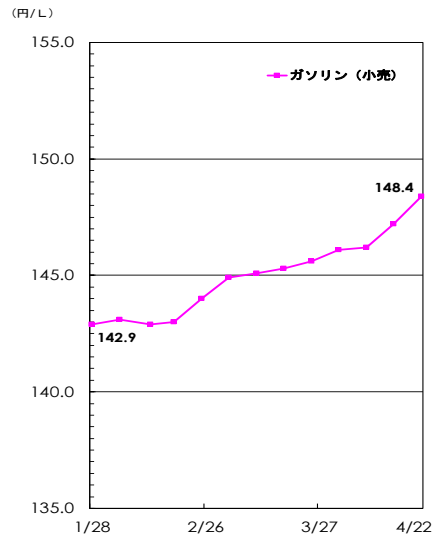
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/14 ~ 4/20	3,489 ▲13	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.1 ▲0.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/20	12,886 ▼-19	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/22	72.11 ▲2.69	▲ 2.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/22	65.70 ▲2.30	▼ -2.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	66.83 ▲1.04	▲ 0.04
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,869 ▲824	▲ 2,105
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.48 ▼-0.21	▼ -4.92
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/22	112.99 ▲0.02	▼ -4.15



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/14 ~ 4/20	944 ▲ 4	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	895 ▼ -34	▲ -	
	輸出	"	80 ▲ 80	▼ -	
	在庫	4/20	1,550 ▼ -31	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/16 ~ 4/22	64.5 ▲ 0.4	▲ 2.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/16 ~ 4/22	62.9 ▲ 1.3	▲ 0.7
		(TOCOM/中部)	4/22	66.0 ▲ 2.0	▲ 4.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/22	148.4 ▲ 1.2	▲ 4.3	

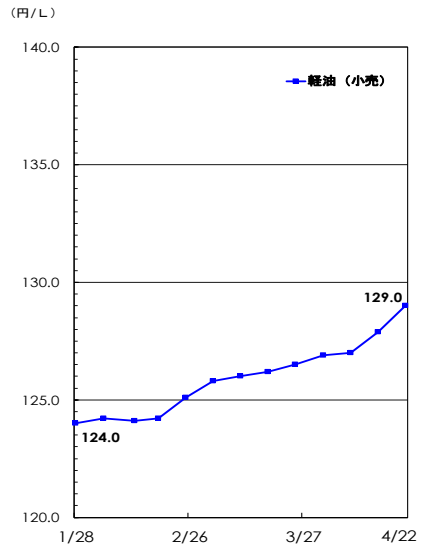
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

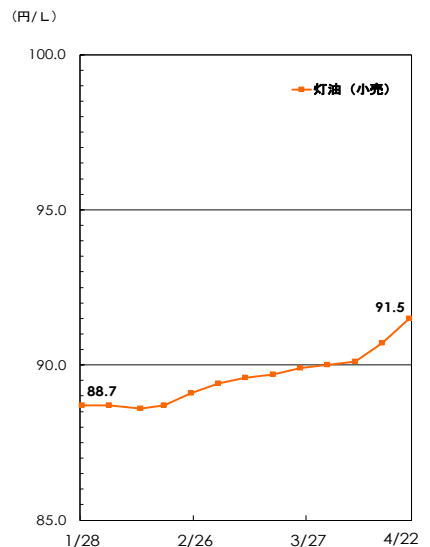
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/14 ~ 4/20	919 ▲ 187	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	657 ▲ 10	▼ -	
	輸出	"	242 ▲ 100	▲ -	
	在庫	4/20	1,360 ▲ 20	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/16 ~ 4/22	67.0 ▲ 0.7	▲ 3.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/16 ~ 4/22	67.1 ▲ 0.4	▲ 4.8
		(TOCOM/中部)	4/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/22	129.0 ▲ 1.1	▲ 6.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/14 ~ 4/20	190 ▼ -16	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	205 ▼ -62	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/20	1,106 ▼ -15	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/16 ~ 4/22	67.4 ▲ 1.1	▲ 4.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/16 ~ 4/22	65.9 ▲ 0.4	▲ 3.2
		(TOCOM/中部)	4/22	66.5 ▲ 2.3	▲ 6.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/22	91.5 ▲ 0.8	▲ 3.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月24日のNYMEX市場WTI原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が前週比550万バレル増と市場予想(前週比130万バレル増)を大きく上回ったこと、この結果米国の原油商業在庫は4.6億バレルと2017年10月6日調査以来の高水準に達したことから、供給ひっ迫感が薄れ、反落した。また、前日、国際エネルギー機関(IEA)も、国際市場への供給は十分であり、供給余力にも問題はないとする見解を発表した。6月限終値は前日比0.41ドル安の65.89ドル。7月限の終値は前日比0.35ドル安の65.89ドルだった。

EIAによると、4月22日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.3セント値上がりの1ガロン2.841ドル(84.7円/ℓ)、ディーゼルは同2.9セント値上がりの3.147ドル(93.8円/ℓ)となった。ガソリンは11週連続の値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年4月14日～4月20日に休止したトッパー能力は19.7万バレル/日で、前週に対して5.2万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は348.9万klと、前週に比べ1.3万kl増加。前年に対しては1.9万klの増加。トッパー稼働率は89.1%と前週に対して0.3ポイントの増加、前年に対しては0.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.5%増、ジェット/7.7%減、灯油/7.7%減、軽油/25.6%増、A重油/11.7%減、C重油/4.2%減。今週のC重油の輸入は4.5万kl(前週比3.8万kl増)。軽油の輸出は24.2万kl(前週比10.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、ジェット、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は89.5万kl(対前週3.7%減)と前週比で2週連続で減少となり、16週連続で100万klを下回った。ジェット13.9万kl(対前週81.9%増)、灯油20.5万kl

(対前週23.2%減)、軽油65.7万kl(対前週1.6%増)、A重油21.2万kl(対前週5.9%増)、C重油18.2万kl(対前週2.4%減)。

(単位:千kl)

	今週 (4/14 ~ 4/20)	前週 (4/7 ~ 4/13)	前週比
ガソリン	895	929	▼ -34 (-4%)
ジェット燃料	139	76	▲ 63 (83%)
灯油	205	267	▼ -62 (-23%)
軽油	657	647	▲ 10 (2%)
A重油	212	200	▲ 12 (6%)
C重油	182	186	▼ -4 (-2%)
合計	2,290	2,305	▼ -15 (-1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月20日時点の在庫は、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは155.0万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては14.3万kl少ない。

灯油は110.6万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては27.0万kl少ない。

軽油は136.0万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては9.4万kl少ない。

A重油は74.2万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

C重油は190.8万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては8.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (4/20)	前週 (4/13)	前週比
ガソリン	1,550	1,581	▼ -31 (-2%)
ジェット燃料	894	971	▼ -77 (-8%)
灯油	1,106	1,121	▼ -15 (-1%)
軽油	1,360	1,340	▲ 20 (1%)
A重油	742	752	▼ -10 (-1%)
C重油	1,908	1,916	▼ -8 (-0%)
合計	7,560	7,681	▼ -121 (-1.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月16日から22日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはわずかに円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、4月16日～22日の間、ガソリン118円台でわずかに値上がり後値を戻し、軽油66～67円台で値上がり、灯油66～67円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン119～121円台で大きく値上がり、軽油67円台でわずかに値上がり、灯油

65～67円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン116～118円台で大きく値上がり、軽油67円台でわずかに値上がり、灯油65～66円台で大きく値上がりして推移した。

次週・次々週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社2.0円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、海上・灯油の横ばいを除く全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

5月第1週(4/25～5/8)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4/16～4/22千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.3円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.3円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

5月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の引き上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/16 ~ 4/22)	前週 (4/9 ~ 4/15)	前週比
	レギュラー	64.5	64.1
灯油	67.4	66.3	▲ 1.1
軽油	67.0	66.3	▲ 0.7

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (4/16 ~ 4/22)	前週 (4/9 ~ 4/15)	前週比
	レギュラー	62.9	61.6
灯油	65.9	65.5	▲ 0.4
軽油	67.1	66.7	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/16～4/22実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 0.8
灯油	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 0.8
軽油	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.6
A重油	▲ 1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.2円高の148.4円、軽油も同1.1円高の129.0円、灯油は18%ベースで同15円高の1,647円(1%ベースでは同0.8円高の91.5円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに10週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが全47都道府県、横ばい・値下がりはない。全国最安値は徳島県の142.6円(前週比2.1円高)、次が千葉県と埼玉県の144.0円(各同0.6円高・1.6円高)、最高値は長崎県の158.2円(同0.5円高)であった。最も値上がりしたのは3.0円高の宮城県(148.5円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の引き上げとなった。

今週は、原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の引き上げとなった。次週(5月7日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/22)	前週 (4/15)	前週比	直近高値
レギュラー	148.4	147.2	▲ 1.2	08/8/4 185.1
灯油	91.5	90.7	▲ 0.8	08/8/11 132.1
軽油	129.0	127.9	▲ 1.1	08/8/4 167.4

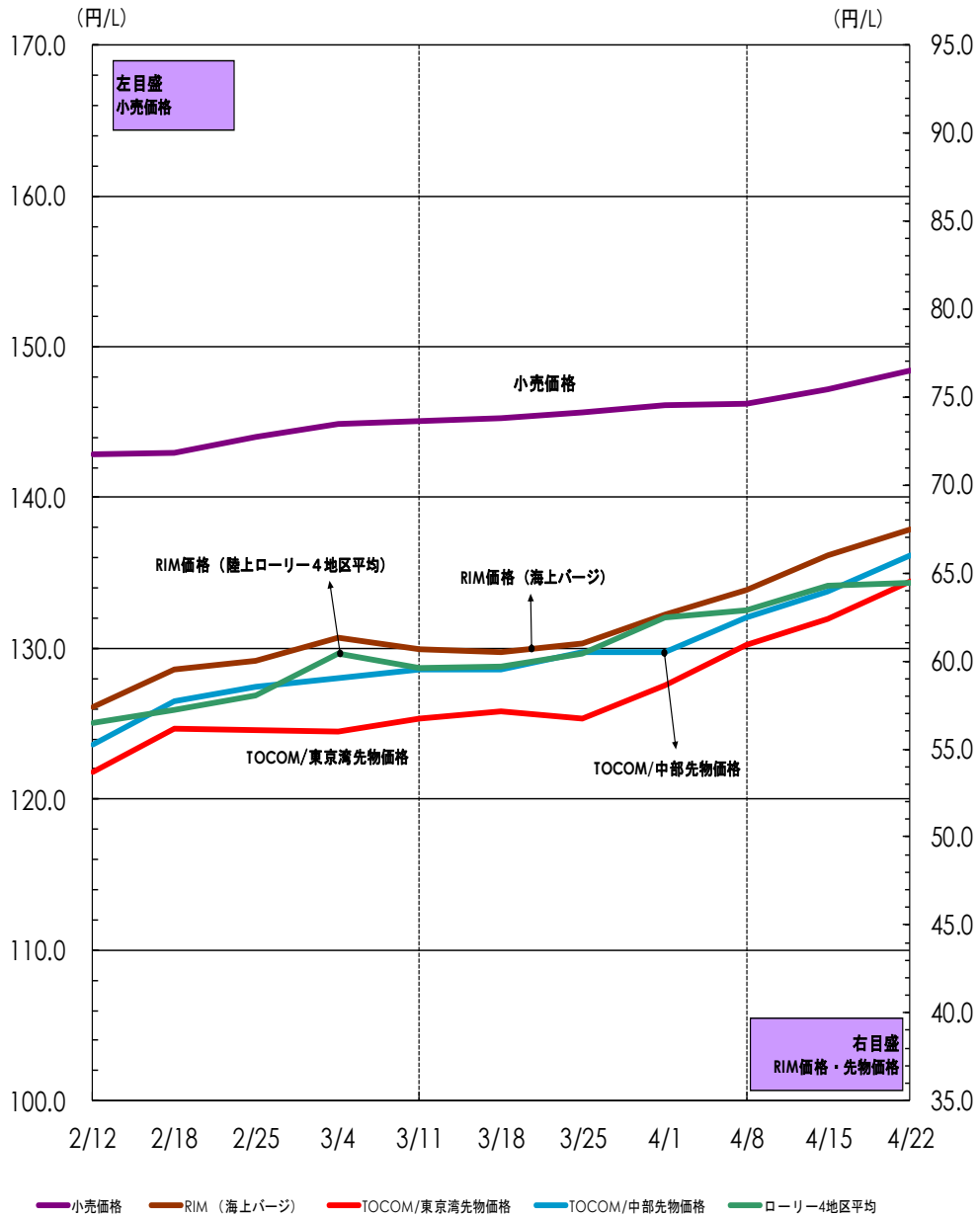
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/2/12 ~ 2019/4/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第5号)の公表は、5/10(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。